

公益社団法人水戸青年会議所

2021年度 理事長所信

公益社団法人水戸青年会議所
第69代理事長 深作 陽右

スローガン

「堅忍力行」

基本理念

柔軟な発想を育み

未来へ繋ぐまち

新時代水戸の魁

基本方針

柔軟な思考と変革の機会

地域とともに歩むまちづくり

歴史を紐解き未来を描く

繋がりを再認識しさらなる飛躍へ

誠実で真摯な組織運営

多様性に富む組織

組織を存続させる知識の共有

【はじめに】

新型コロナウイルスの感染拡大に端を発した未曾有の厄災は全世界に社会的・経済的な危機を及ぼし、私たちの日常を一変させました。当たり前であったことが当たり前ではなくなり、青年会議所の活動においても大きな影響を受けることになりました。このような時に思い出されるのは水戸青年会議所設立趣意書の冒頭です。

新日本の再建は我々青年の仕事である。更めて述べる迄もなく今日の日本の実情は極めて苦難に満ちている。この苦難を打開してゆくため採るべき途は先ず国内経済の充実であり、国際経済との密接なる提携である。その任務の大半を負っている我々青年はあらゆる機会をとらえて互に団結し自らの修養に努めなければならぬと信ずる。

日本の青年会議所運動は、戦後の混沌とした時代背景の中、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志によって始まりました。時代は変われども、この脈々と受け継がれてきた創始の精神こそが、この時代に求められているのではないのでしょうか。

【堅忍力行】

「堅忍」とは強い意志をもって困難を耐え忍ぶこと、「力行」とはその困難を打ち破るために努力して実行すること、私の母校の校是であります。この言葉を知った15歳の頃より常に私の心のどこかに在りました。そして、不安や心配を抱えた時にふと思い出されるのです。今この時代に不安を感じずに生きていくことは難しいでしょう。しかし、不安という感情は決して悪いことだけではないはずです、ひとは不安になるからこそ、それを払拭するための冒険や挑戦をすることができるのです。たとえあなたの目の前に高い壁が聳え立っていたとしても、怯むことなく勇気をもって、一つ一つ確実に乗り越えていきましょう、その先には成長が約束されているのだから。

【柔軟な思考と変革の機会】

常識が覆され、環境や生活を変えなければならないことを強いられる体験は人生の中でそう多くはないでしょう。ひとはそのような時、以前の生活に思いを馳せるものではありませんが、そう考えるのはもうやめることにしましょう、完全に元に戻ることは有り得ないのです、それは時計の針が逆回転しないのと同じように。そうであるならば、変わるべきは己の意識であり、行動なのです。1つの考え方や手法に捉われず、意味のないこだわりなど捨て去ってしまおう、柔らかな頭で考えることで今まで見えていなかった景色が浮かんでくるのです。

交通安全啓蒙活動を旗印に掲げ、長きに渡り開催してきた「ちびっ子広場」についてはどうでしょうか。第1回が開催された1975年当時、社会問題となっていた交通事故死者数は、最大であった1970年から、現在ではその5分の1まで減少しています。これは行政による道路の整備や、自動車技術の進歩、救命医療の高度化、そして交通安全意識の醸成といった多くの人々の努力の賜物であることは明白です。このように環境が変わっているのであるから、交通安全啓蒙は勿論のことではありますが、豊かな心を育てる情操教育の面を今まで以上に推し進め、地域の宝である子供たちにかげがえのない機会を提供していきましょう。そして、「ちびっ子広場」の今後についても私たちが考えていかなければなりません。

【地域とともに歩むまちづくり】

水戸のまちは弘道館に代表される歴史ある指定文化財を数多く所有し、自然に恵まれた

偕楽園や水戸芸術館といった多くの魅力が溢れる地方都市ではありますが、その魅力が十分に伝わっているのでしょうか。本年は、公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会主催の第69回関東地区大会水戸大会を主管する機会を頂きました。これを好機と捉え、郷土愛をもった市民と私たちとで手を取り合いながら、水戸の魅力と未来の可能性を多くの人々へ伝えていきましょう。そして、行政や他団体と協力する機会を決して逃すことなく、中心市街地を活用した将来性を市民一人ひとりが感じることで、未来に繋がるまちづくりを行って参ります。

2011年3月11日午後2時46分に三陸沖を震源に発生した東日本大震災は、各地で大きな揺れを観測するとともに、海岸線に壁となって押し寄せた津波は多くの人命を奪い、日本各地に甚大な被害をもたらしました。今もなお避難生活を強いられ、故郷へ帰ることができない人々がいることも忘れてはなりません。あれから10年、日本各地では震災・豪雨といった自然の猛威が幾度となく牙をむきました。10年に一度の、100年に一度の、という言葉をごだけ聞いたのでしょうか、これはもう偶々起こってしまったことではなく、常に起こりうる可能性のあることなのです。ここ水戸でも2019年10月の令和元年東日本台風により大きな被害を受けました。私たちも社会福祉協議会と協力し、浸水した家屋を目の当たりにしながらも少しでも力になればと活動して参りました。それと同時に、被災された方々からの感謝の言葉は私たちの活力にもなりました。これからも水戸のまちを次代へ継承していくために、たとえ被災したとしてもひとの繋がりによって災害の影響を最小限に抑え、互いに助け合いながら速やかに立ち直ることができる回復力をもった防災・減災力を磨いていきましょう。

【歴史を紐解き未来を描く】

70周年を翌年に控えた今、69年目の私たちのすべきことは何か、それは60年代に水戸青年会議所の行ってきた運動を紐解くことに他なりません。すべての運動を知っている者は決して多くはおりません。数多く行ってきた事業が現在の水戸のまちにどのような影響を与えているのか、過去をあきらかにして未来を考える、この彰往考来^{（しょうわうこうらい）}の精神こそが70周年、その先の未来を思い描くうえで大切なことなのです。そして、歴史を学んだ時、紡がれてきた糸が形として残っていることを知った私たちは、先達に感謝の念を抱かずにはいられないことでしょう。

【繋がりを再認識しさらなる飛躍へ】

水戸青年会議所の歴史を語る上で友好青年会議所との関係は欠かすことができません。台湾の嘉義国際青年商会との姉妹締結も5年目を迎え、引き続き交流は行われておりますが、締結の経緯を知る者は年々減ってきています。ましてや、2004年に開催された第53回全国会員大会水戸大会時の宇都宮青年会議所との関係を理解している者は数少ない

でしょう。2021年は第70回全国大会とちぎ宇都宮大会が開催されます、過去の繋がりを再認識し、継承していく上では絶好の機会と言えます。

さらに、2019年に解散した大洗青年会議所の在った大洗町においても新たに活動を行って参りましょう。太平洋をはじめとする雄大な資源は様々な可能性を感じさせてくれますが、まずは私たち自身が大洗町の魅力を知るところから始めていきます。

【誠実で真摯な組織運営】

健全な組織運営を実行するために求められていること、それは豊富な知識や経験などではなく、誠実さではないでしょうか。青年会議所の会員同士の関係は上司や部下といったものではありません。異なる職種の青年経済人の集まりであり、多様な価値観が集まるからこそ、一人ひとりが誠実で真摯な行動を心掛け、自らが周囲から信頼される手本となることが必要なのです。

そして、私たちの組織への理解を得るための広報に力を入れていきましょう。決して自己満足になることのない、戦略的な情報発信を行い、行政や市民へ私たちの運動を波及していくことで、信頼される組織として認知されていくのです。

【多様性に富む組織】

全国の青年会議所の会員数は減少傾向にあり、平均在籍年数も少なくなってきました。水戸青年会議所も例に漏れず、会員数は最盛期の3分の1となり、在籍年数も短い会員が多くなってきました。数がすべてとは申しませんが、ひとが集まることで組織は形成され、大きな力をもつのです。私たちの組織がこれからも存続していくためにも、会員拡大という永遠の課題に全会員が一致団結して取り組んでいきましょう。そして、職業や性別・年齢といった固定観念を取り払い、多様性溢れる仲間をいつでも迎えることのできる団体として存在していくことが大切なのです。

【組織を存続させる知識の共有】

水戸青年会議所は2014年の公益法人格取得以降、名実ともに公の団体として活動して参りました。公益法人としての運営の知識も確実に身に付いては来ていますが、誰か一人に任せることのないように、皆が理解し持続していくことが求められているのです。言うまでもなく私たちの財源の大半は会員自らの会費であり、私たちの運動にご賛同頂いている方々の寄附金で構成されております。しかしながら、この環境に甘えることなく、様々な方法を模索していきましょう。世の中には多くの制度があり、日々新しい手法が生まれています、この飽くなき探求心こそが運動の可能性を拡げ、延いては組織が存続していくことになるのです。

【おわりに】

1953年に水戸青年会議所が創立してから69年、戦後の復興期、高度経済成長期、バブル経済期とその崩壊、時代は激動していきましたが、いつだって青年会議所は在り続けました。その時代その時代の課題に真摯に向き合ってきた諸先輩方がいらっしゃったからこそ、現在の私たちへと繋がっているのです。そうであるならば、目の前の困難に対しても率先して立ち向かって行くことができるはずです。今までの常識に捉われることのない柔軟な思考によって、思いもよらない新たな手法を生み出すことができる者、それこそが青年であると私は信じています。一人ひとりの力は小さくとも志を同じくする仲間と行動することで大きな力となる、そのような青年会議所で在り続けたいと切に願います。

君が躓いて俯きそうになったとき

ふと顔を上げてみよう

君の周りには多くの仲間がいて

空には闇を照らす月が輝いている

共に夢を語ろう

夜明けはすぐそこだ